

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品等の名称	オイルファ インターイロー
製品コード	LL-OFY-Q
供給者の会社名	株式会社エアモア
住所	奈良県生駒市高山町5655
電話番号	0743-21-0005
ファックス番号	0743-21-0006
電子メールアドレス	info@n-airmore.com
緊急連絡電話番号	0743-21-0005
推奨用途及び使用上の制限	オイル漏れ検知用

2. 危険有害性の要約

GHS分類	
物理化学的危険性	区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性(吸入) - 粉じん／ミスト 区分4 皮膚腐食性／刺激性 区分2 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分2B 生殖細胞変異原性 区分 2 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分 2 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分 1 誤えん有害性 区分 1
環境に対する有害性	分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語	危険
危険有害性情報	H315 皮膚刺激 H320 眼刺激 H350 発がんのおそれ

注意書き

安全対策	P201 P202 P264 P280	使用前に取扱説明書入手すること 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと 取扱い後は顔、手、露出した皮膚をよく洗うこと 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること
応急措置	P302+P352 P305+P351+P338 P308+P313 P332+P313 P337+P313 P362+P364	皮膚に付着した場合：多量の水と石けん(鹸)で洗うこと 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること 眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること
保管	P405	施錠して保管すること。
廃棄	P501	内容物／容器は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
-------------	-----

組成物質名	CAS登録番号	化管法指定化学物質の種別	化審法官報公示整理番号	安衛法官報公示整理番号	濃度又は濃度範囲
鉱物油	※	※	※	※	70~80%
蛍光染料	※	※	※	※	20~30%

※企業秘密情報のため記載なし。

4. 応急措置		
吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移り、呼吸しやすい姿勢で休息させること。ミストが発生している場合は、項目8を参照。	
皮膚に付着した場合	直ちに、汚染された衣類を全て脱ぎまたは取り除くこと。皮膚を多量の水と石鹸で優しく洗うこと。 気分が悪いときは、医師に連絡すること。皮膚の刺激または発疹が生じた場合、医師の診察/手当てを受けること。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。	
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。 その後も洗浄を続け、直ちに医師に連絡すること。	
飲み込んだ場合	直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。この製品は有害物質ではない。	
5. 火災時の措置		
適切な消火剤	粉末消火剤、二酸化炭素（小規模火災の場合）、水霧、泡、砂または土	
使ってはならない消火剤	消火に水噴射をしない。製品は水に浮き、火災を拡大する可能性がある。	
火災時の特有の危険有害性	火災時には以下のような生成物が発生する可能性がある：炭素の酸化物。	
特有の消火方法	噴流水や泡を消火に用いてはならない。鉄道車両またはタンクローリーが火災に関与している場合、全方向に800メートル隔離すること。 危険がない場合は、火源への燃料供給を遮断すること。これが不可能な場合は、区域から退避し、制御された条件下で燃焼させること。 安全弁の作動音が大きくなる場合や、火災によるタンクの変色が見られる場合は、直ちに退避すること。	
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	自給式呼吸器。	
6. 漏出時の措置		
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	関係者以外の立入りを禁止する。作業者は適切な保護具（『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照）を着用し、 眼、皮膚への接触や吸入を避ける。密閉された場所に立入る前に換気する。	
環境に対する注意事項	漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。 流出区域を堤防で囲って拡散を防ぎ、液体をポンプで廃棄物回収タンクに送る。 廃棄物：水路への流出を避ける。地域の規制に合致した方法を用いるか、または焼却する。	
封じ込め及び浄化の方法及び機材	漏洩を封じ込めるために堤防を作る。砂、土、バーミキュライト（断熱材、吸湿材）などの不活性な材料で吸収する。 リスクなしに漏洩を止められる場合は、直ちに対処すること。 床が滑りやすくなる可能性があるため、転倒しないよう注意する。	
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。	
7. 取扱い及び保管上の注意		
取扱い	技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 適切な保護具を着用しない限り、40℃を超える温度で取り扱わないこと。
	安全取扱い注意事項	空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。
	接触回避	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
	衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。
保管	安全な保管条件	熱、火花、火気に近づけないこと。5℃～40℃で保管すること。乾燥した換気の良い 場所で遮光し、元の容器に密封して保管すること。
	安全な容器包装材料	包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れること。
8. ばく露防止及び保護措置		
管理濃度	設定されていない。	
設備対策	取扱いについては全体換気装置を設置した場所で行う。	
保護具	呼吸用保護具	蒸気／ミストを発生する方法で使用する場合は、有機ガス用呼吸保護具を着用する。
	手の保護具	耐油性の手袋を着用すること。
	眼、顔面の保護具	適切な保護眼鏡を着用すること。
	皮膚及び身体の保護具	皮膚との接触を最小限にするため、長袖など保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

物理状態
色
臭い

液体
濃赤色
無臭、または穏やかな石油臭

融点・凝固点

データなし

沸点又は初留点及び沸点範囲

データなし

可燃性

データなし

爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界

データなし

引火点

≥114℃（試験方法：PMCC, ASTM D93）

自然発火点

データなし

分解温度

データなし

pH

データなし

動粘性率

> 20.5 mm²/s - 40℃

溶解度（水への）

不溶性

溶解度（有機溶媒への）

可溶性

n-オクタノール／水分分配係数（log値）

データなし

蒸気圧

<0.1 kPa - 20℃

密度及び／又は相対密度

0.98 g/cm³ - 20℃

相対ガス密度

データなし

粒子特性

データなし

その他データ：分配係数

log POW: >6 本製品は油に溶ける。

その他データ：揮発成分の割合

なし

その他データ：比重（H₂O=1）

<1

10. 安定性及び反応性

反応性

塩酸塩、硝酸塩、過酸化化物などの強酸や強酸化剤と反応することがある。

化学的安定性

この物質は、通常の周囲環境および予想される保管・取り扱い条件の温度・圧力下では安定であると考えられる。

避けるべき条件

極端な温度、直射日光/紫外線、強い酸化剤。

危険有害な分解生成物

燃焼により、以下の燃焼生成物が発生することがある：炭素酸化物とす。

危険な重合

危険な重合は起こらない。

11. 有害性情報

急性毒性（経口）

利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

急性毒性（経皮）

利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

急性毒性（吸入：気体）

利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

急性毒性（吸入：蒸気）

利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）

利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

皮膚腐食性／刺激性

利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

呼吸器感受性

利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

皮膚感受性

利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

生殖細胞変異原性

利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

発がん性

利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

生殖毒性

利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

生殖毒性・授乳影響

利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。分類できない。

12. 環境影響情報

本製品は水中で安定しており、機械的に水と分離できる。分離後の水は、生物学的排水処理施設での処理に適している可能性がある。

生態毒性	水生環境有害性 (短期/急性)	データなし
	水生環境有害性 (長期/慢性)	データなし
残留性・分解性		データなし
生態蓄積性		データなし
土壤中の移動性		データなし
オゾン層への有害性		データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制	国連番号	該当しない
	品名 (国連輸送名)	該当しない
	国連分類 (輸送における危険有害性クラス)	該当しない
	副次危険	該当しない
	容器等級	該当しない
	海洋汚染物質	該当しない
	MARPOL73/78附属書 II 及びIBC	
	コードによるばら積み輸送される液体物質	該当しない
	ADR/RID/IMDG/ICAO	本製品はADR / RID / IMDG / IATAの規制対象外である。
	USA	本製品はDOTの規制対象外である。
国内規制	TDG-CANADA	本製品はTDGの規制対象外である。
	海上規制情報	非危険物
	航空規制情報	非危険物
	陸上規制情報	
	消防法:	消防法:引火性液体、第4類、第3石油類、非水溶性液体、危険等級III、2000リットル

1 5. 適用法令

労働安全衛生法	鉱物油：表示の対象となる範囲 (重量%)	($\geq 1\%$)
	鉱物油：通知の対象となる範囲 (重量%)	($\geq 0.1\%$)
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	該当しない	
毒物及び劇物取締法	該当しない	
消防法	引火性液体、第四類第三石油類、非水溶性液体 危険等級Ⅲ、2000 ℓ	

1 6. その他の情報

引用文献等 : 原材料メーカーのSDS

ここに掲載した情報は、本製品に限定して当社が最善をつくして集めたものを提供しておりますが、いかなる保証をなすものではありません。取扱い方法は、一般的に妥当とされているものを記載してあります。ユーザーの責任において、個々の用途に照らして取扱い方法を検討してください。

このSDSは、新しい知見により改訂されることがありますので、当社営業部門に最新版のSDSを請求していただくことをお勧めします。

以上

[注意] 本SDSはJIS Z7253:2019 に準拠して作成しています。